

2023年度 「羽ばたけ！若手教職員PJ」

長期コース

氏名	学院	所属塾	訪問国	共同研究の題目	出発日	帰国日	期間	訪問先
笹原 帆平	工学院	広域基礎研究塾 5期生	アメリカ	Secure reliable data-driven control in unreliable environments	2023/9/11	2024/3/11	約6か月	①カリフォルニア大学 サンタクルーズ校

短期コース

氏名	学院	所属塾	Annex	国際連携の題目	出発日	帰国日	出張日数	訪問先
荒井 慧悟	工学院	広域基礎研究塾 4期生	アメリカ	タイムクリスタルの応用可能性の探究	2023/9/4	2023/9/28	4週間弱	① UC Berkeley ② PrognomiQ Inc ③ PDF Solutions ④ TechCrunch Disrupt 2023 ⑤ Stanford University
朱 博	科学技術創成研究院	広域基礎研究塾 4期生	アメリカ	Novel biomolecular display technology and its application in biosensing and origin of life studies	2023/10/29	2023/11/26	4週間強	①ミネソタ大学 ツインシティー校 ②カリフォルニア大学 ロサンゼルス校

出張者の感想

今回の派遣では、当初の目的であった研究の国際連携基盤の構築を進めるに留まらず、ベイエリア特有の研究バリューチェーンの垂直統合について、様々な立場の人々から話を伺うことができた。研究については、アイデアの議論から試料の準備、実験実証に至るまで日米でどのように相補的に協力できるかについて、UC BerkeleyおよびStanford大学研究者と話を深めました。研究バリューチェーンについては、人々を繋げる機会と、アイデアを熟慮する環境などの観点からベイエリアと東京との違いが浮き彫りとなった。私自身もたった一ヶ月の間に、派遣前は予定していなかった様々な分野の人々との出会いがあり、研究者のアイデアをみんなで協力して社会に送り出そうというベイエリアの機運を肌で感じることができた。

出張者からの意見・要望

様々なトラブルに柔軟に対応して頂き、渡航にあたって不便を感じたこともなかったため、特に要望はない。

派遣支援事業への要望としては、家族(子供)帯同での出張について何かしらの関連情報を事前に提供してほしい。(今回3人の乳幼児を連れて出張したが、昨年度は家族帯同の選択肢が頭になく、最初から応募を諦めていた。)幸いにも昨年子供帯同で派遣された先生の事例を伺い、挑戦に至った。若手教員の多くが乳幼児を抱えている状況にあると思うので、家族帯同という選択肢があることを案内するだけでも、真剣に検討する塾生が増えるのではないかと感じた。

米国インフレによる宿泊費増額をサポートして頂けて感謝しています。この増額申請に関する情報が募集要項に記載されていれば、次回からの応募者が決定を下すのに役立つと思った。

米国 J1 奨学生ビザ(現地実験用)には特別な保険への加入が必要だが、東工大が提供する健康保険では全額サポートされない。J1 ビザで必要な健康保険(適切な待機期間後の既存疾患の補償等)もサポートして頂ければ、より便利になると思う。

プログラムに、受入側 PI を日本での講演に招待したり、彼らの部分的な渡航サポートを提供したりするオプションを追加できると、申請者と受入側 PI との関係をより強固にするのに効率的であると感じる。こうすることにより、若手研究者にとって、国際研究セミナーを開催したり、国際研究コミュニティに参加する権利や機会が増えると思う。